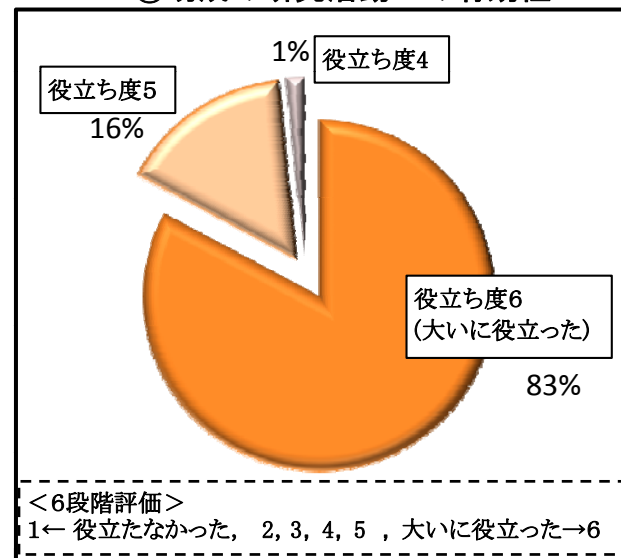


研究助成の効果について [H27年度試験研究助成フォローアンケート調査結果]

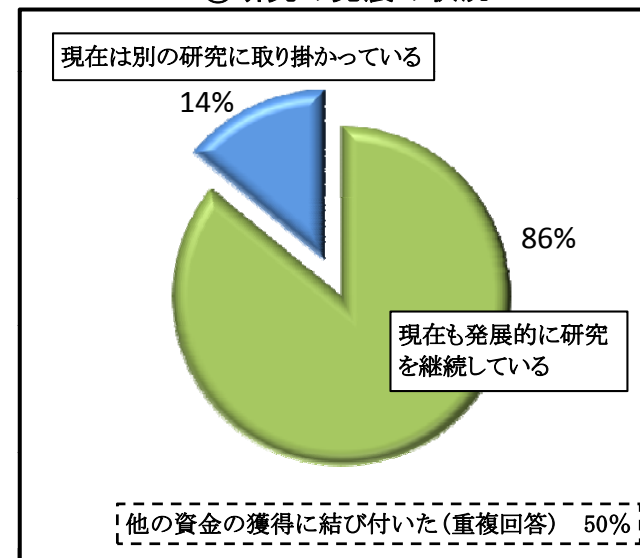
研究助成の成果については研究終了後に報告書を受領しているが、短期間では確認できない研究成果もあることから、一定期間経過した研究を対象にアンケート調査を実施して研究助成の効果を確認した。

調査対象者	H20～H24年度に研究を終了した研究者 70名 (回答者数64名) [参考] 前回調査 (H20年度) H15～H17年度に研究を終了した研究者 64名 (回答者数54名)
研究助成の効果	<p>次の調査結果から、当財団からの助成が中国地域の研究者の支援および研究の発展に寄与していることが確認できた。</p> <p>①助成の研究活動への有効性 「大いに役立った」の比率は83%となり、前回調査よりアップした。研究費の調達が困難な状況の中で財団からの助成により研究が実施できたり、研究機材等の充実により研究の質的向上や研究期間の短縮につながっており、助成金が効果的に活用され研究者に役立ったことが確認できた。</p> <p>②研究の発展状況 86%が発展的に研究を継続している。その半数は、当財団から助成により実施した研究成果から他の資金を獲得して、研究を実施している。(前回調査と同傾向)</p> <p>③実用化の状況 「実用化した」は前回調査から5%増加し23%となっている。「当面実用化困難」が37%を占めており、前回調査から倍増となっている。また短期(2～3, 5年以内)に実用化の見込みが36%と前回調査の58%から大幅に減少しており、研究成果の実用化がより困難になっていることが伺える。</p> <p>④研究が活用された状況 (重複回答) 助成により実施した研究成果は、他の研究者との共同研究に繋がったり、他の研究者の論文に引用されており、助成事業の波及効果についても確認ができた。</p> <p>⑤研究者からの意見 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国電力技術研究財団の助成で行なったことが後の研究の基盤となった。 当該研究費の一部で基盤的な測定装置の購入が可能になったため、研究の質・スピード共に各段に向上した。 助成をきっかけとして、科研費獲得、他大学との共同研究に発展し、今もなお継続的に研究活動を続けており、非常に有効性の高いものである。 予算が乏しく外部資金確保が必要だが、大半が全国での競争となり獲得が困難な中で、中国地域内での助成制度は大変有難い制度であり、研究の推進に役立っている。

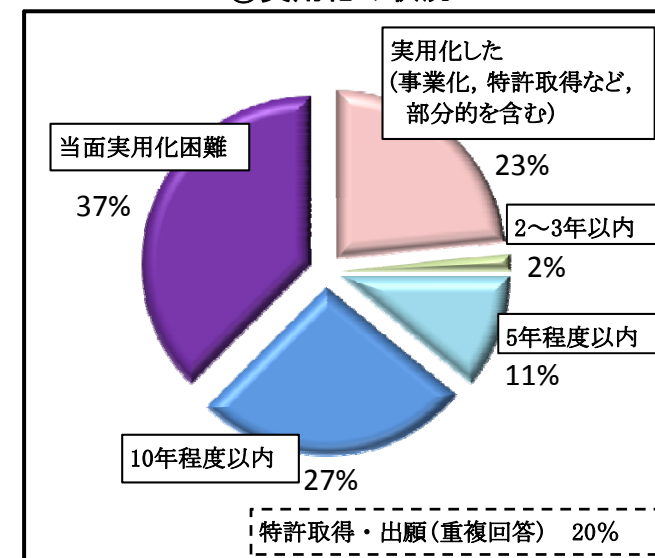
①助成の研究活動への有効性



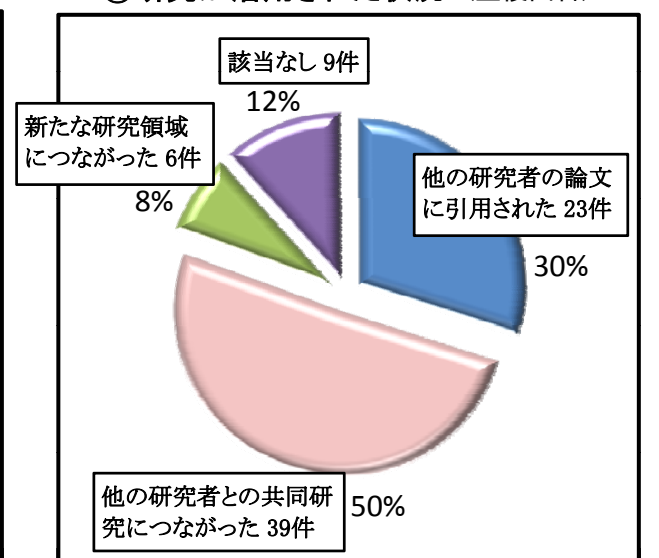
②研究の発展の状況



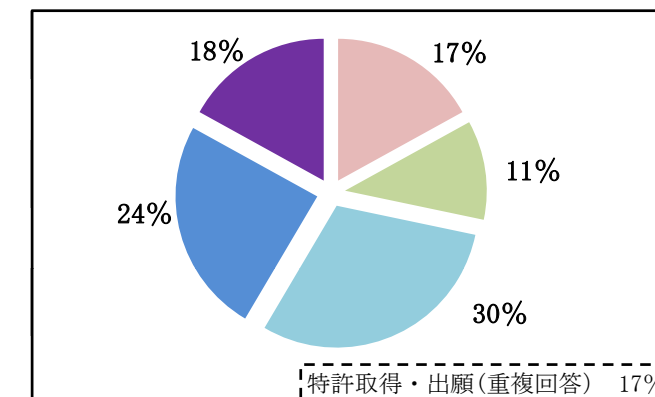
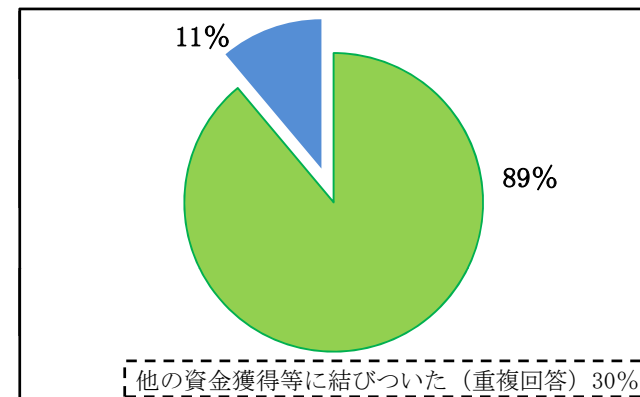
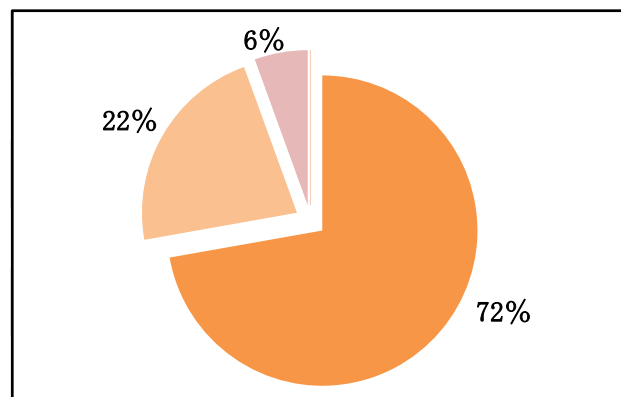
③実用化の状況



④研究が活用された状況 (重複回答)



【参考】 前回(H20年度)の調査結果



【参考】 H27年度試験研究助成フォローアンケートの集約状況

助成研究 終了年度	対象 者数	回収 件数	回収 率	助成の研究活動への有効性				研究の発展の状況			実用化の状況						研究が活用された状況 (重複回答)					
				1←役立たなかった 大いに役立った→6				現在も発展 的に研究を 継続してい る	現在は別 の研究に 取り掛かっ ている	他の資金 の獲得に 結び付い た (重複回答)	実用化した (事業化、 特許取得 など)	部分的 に実用 化	実用化の見込み			当面 実用 化は難 しい	特許取 得・出願 (重複回 答)	他の研究 者の論文 に引用され た	他の研究 者との共同 研究につ ながった	新たな研究 領域につ ながった	該当なし	
				3以下	4	5	6						2~3年 以内	5年程度 以内	10年程 度以内							計
H20年度	21	18	86%			4	14	15	3	(9)	4	0		2	3	5	8	(4)	8	9	0	2
H21年度	19	19	100%		1	2	16	16	3	(8)	5	1	1		7	8	6	(5)	7	12	4	2
H22年度	9	8	89%			2	6	8	0	(4)	1	0		3	3	6	1	(1)	3	5	1	1
H23年度	11	10	91%			0	10	8	2	(7)	2	0		1	1	2	6	(1)	2	6	1	3
H24年度	10	9	90%			2	7	8	1	(4)	2	0		1	3	4	3	(2)	3	7	0	1
合計	70	64	91%		1	10	53	55	9	(32)	14	1	1	7	17	25	24	(13)	23	39	6	9
比率					1%	16%	83%	86%	14%	(50%)	23%		2%	11%	27%	40%	37%		30%	50%	8%	12%

財団への意見・要望等（主なもの）	
研究活動への貢献 (どのように役立ったか、 役立たなかった等)	<ul style="list-style-type: none"> 研究を遂行する上での主に試薬代として使用した。これには非常に多くの試薬を試す必要があるため(try & error)、貴重な資金として活用させていただいた。 貴財団の研究助成により、石炭灰を用いた白色ゼオライトの迅速合成プロセスの開発、ゼロエミッション化を飛躍的に進めることができ、さらに、連続合成プロセスの開発に繋がる基礎的研究結果を多く得ることができた。 高額な光学部品を組み合わせた利用的な実験系を構築することができ、本技術を発展させる上で非常に重要であった。 基礎となる技術を確立するためには、まずキーとなる機器（ここではサーモグラフィー等の機器）の購入等が必要であり、このような助成は大変役立つ。
研究の発展や 他助成への結びつき	<ul style="list-style-type: none"> 助成を受けることによってこの研究が進化したことにより、科研費などの交付も受けることが出来た。 研究の初期段階での検討に利用させていただいた。その後の研究の発展にとって、初期段階に多面的な検討ができたことが非常にプラスになっており大いに役立っている。 貴財団の助成により、数多くのリード化合物が合成でき、現在の研究につながる基礎データを積み上げることができた。 挑戦的な研究であったキックオフを促進することができ、より広い範囲への研究展開が短期間で実現された点で、本財団の助成は多いに役だったものといえる。 現在は実用化のために協力いただける企業が見つければ、実用化まで見通せる状況にまで研究が発展し、大いに役に立ちました。 材料の基礎特性の測定装置の開発に多くのご支援を頂いたことで、得られた測定結果をもとに、新たなテーマが見つかり大いに役立った。
助成制度、助成対象、 手続き他	<ul style="list-style-type: none"> その他の研究費と比べて、研究費の使途の自由度が高く、使いやすい。 基礎的な研究は、実用化の面からは遠いことがしばしばなため、研究費取得が困難であることは否めません。貴財団が今後も基礎研究に対して厚くご支援くださると研究者としてはとても心強く感じます。 大学等の研究における様々な局面で貴財団における研究助成は極めて貴重かつ有効な存在と思います。今後も、萌芽段階の研究から実用展開を目指す研究など、様々なフェーズの研究に対してこのような助成金によるバックアップが有り続ける事を強く望みます。 国立大学法人化後、国からの予算が毎年減額されていますので、貴財団の研究助成金の意義は非常に大きく、それは我々の研究推進にとっても役に立ちます。 中国地域を中心とした研究者を対象とした本研究助成は、特に若手研究者にとっては非常に有効性が高いものであると感じております。 研究成果のみならず、電力事業への応用面を考慮することで、私個人の電力事業全体への理解も深まったと思っています。 短期的な研究成果で判断するのではなく、長期的に、中国地域の技術レベルの向上（それは中国地域の電力事業にも間接的に寄与すると思います）という観点で、今後も継続的な事業展開を切にお願いしたい。

以上